

ひだまり

居宅介護支援事業所
さいど by さいど
障害者相談支援事業所
さにーさいど

けあさぼりんく通信
2016年 1月号
Vol.1

発行:北海道ケアマネジメントサポートリンク



「言うは易く行うは難し」だが・・・

一般社団法人北海道ケアマネジメントサポートリンク（けあさぼりんく）
代表理事 奥田 龍人

明けましておめでとうございます。

昨年は居宅介護支援事業所を立ち上げました。おかげさまで皆様の温かいご支援もあり、なんとか船出ができたところです。併せて、障害者相談支援事業所も立ち上げました。私はもともと障害者福祉からソーシャルワークの世界に入っているので、居宅介護支援事業所と一緒に運営することは違和感はないのですが、実際にOPENすると、意外と障害者の子どもと認知症になった親などの相談があることがわかりました。また、65歳以上の障害者問題でも、ケアマネジメントの継続性などが課題ということもわかり、一緒に立ち上げたのはよかったと思っております。

ただ、居宅介護支援の方は、あまり利用者がいなくて運営は厳しいところです。札幌は高齢者向け住宅がどんどん増えてきており、ご自宅でケアを受ける要介護の方が少なくなっていると感じています。でもずっと住み慣れた自宅で暮らすという選択をされる方も、これからは増えてくるでしょう。その方々の期待に応えるには、介護保険サービスだけでは無理ですから、インフォーマルサービスも充実させて、暮らしの選択肢をたくさん用意したいものです。

ところで、先日、スーパーバイザー養成講座 in 北海道初級編の講師で呼び出した白木裕子さん（日本ケアマネジメント学会理事）が、ケアマネの将来像についてかなり厳しいことを言っていました。「このままでは『御用聞きケアマネ』ばかりになると危惧している」と。ケアマネの利用者負担も検討の材料にのぼっています。公正・中立に「自立支援に結び付く根拠を持ったケアマネジメント」を目指すことが理想ですが、「言うは易く行うは難し」です。でも、ケアマネジメントの原点に戻って、取り組んで行きたいと考えております。

さて、私どもけあさぼりんくでは、法人のPRの媒体として、機関紙を発行することとしました。未筆ながら、本年もよろしく願いいたします。

ケアマネジャー紹介

居宅介護支援事業所さいど by さいどの介護支援専門員です！

○荒瀬 裕美

ケアマネジャーの仕事をはじめて4ヶ月が経ちました。新しい職場はかれこれ9年ぶりなのと、ペーパードライバーだったこともあり、いろいろな意味で奮闘中です。出会いを大切にがんばりたいと思っております。よろしくお願い申し上げます

○松本 麻美

9月よりケアマネジャーとして入社いたしました。10年間、介護老人保健施設の介護職員として勤務しておりましたが、ケアマネジャーは初めてで、先輩にご指導頂きながら試行錯誤を重ねる日々です。まだまだ勉強不足ではありますが、少しでも皆様のお役にたてるよう頑張ります。よろしくお願い申し上げます。

12月22日に、厚労省で全国介護保険・高齢者保健福祉担当者会議が開催された。主な議題は、安倍首相が提唱している新三本の矢のひとつ「一億総活躍社会実現に向けた緊急対策（介護離職ゼロ関係）」である。この政策は、今までの地域包括ケアの概念とはやや異なるものだが、今後の介護保険制度を占うカギとなるだろう。

介護離職ゼロの基本的な施策は、①必要な介護サービスの確保（在宅・施設サービスの充実・加速化と介護人材の確保）と、②働く環境改善・家族支援（介護サービスを活用するための家族の柔軟な働き方の確保と働く家族への相談・支援の充実）となっている。

介護サービスの確保については、約50万人分のサービスを整備することとし、そのうち12万人分が介護離職ゼロ施策による上積みである。特養の自宅待機15万人の解消も目標に掲げ、特養の整備、サービス付き高齢者向け住宅の整備と補助金の上乗せ、小規模多機能型居宅介護や定期巡回随時対応型訪問介護看護、グループホーム等の包括サービスの整備を掲げている。保険料への影響も大きくなるだろう。

この施策は、「住み慣れた地域での包括的ケア」といった地域包括ケアの理念が「施設中心のケア」へ変節したのではないかと受け取られるが、そもそも地域包括ケアの理念はサービス付き高齢者向け住宅の制度ができたあたりから、「住まい包括ケア」へと舵を切っている。在宅に要介護の親がいると、サービスをいくら調整しても勤め人である子どもは安心できないので、高齢者向け住宅での包括ケアが介護離職を防ぐ手段として有効であるということだ。実際、「地域包括ケアの植木鉢の図」でも、「すまいとすまい方」が植木鉢本体になっている。特養整備は首都圏などの課題で、札幌あたりはますますサービス付き高齢者向け住宅に頼るケアになっていくのだろう。また、介護療養型病床の転換先として、医療外付け型の住まいの検討もされている。そうした流れからみれば、医療区分1の患者さんの受け皿として診療所が住まいを併設しているところは、今後もますます増えて行くだろう。医療に関しては同一建物減算の見直しがあるかもしれない。こうしてみると「介護離職ゼロ」の施策は、案外札幌市がかなり進んでいるのではないかと。

活動報告

このコーナーでは、けあさぽりんくで企画・運営した研修会等の活動を報告します。

- 12月19日～20日 スーパーバイザー養成講座 in 北海道初級編を実施しました。
全道各地から62名の参加で、講師の白木裕子さんの講義、演習を熱心に受講していました。
- 12月20日に、ウィンターセミナー「ソーシャルワークとケアマネジメントの関係」を開催しました。参加者は82名で、講師の白澤政和先生（桜美林大学教授）の講演と、シンポジウムを行いました。シンポジストは、北見市南部地区地域包括支援センター長の島田剛さんと居宅介護支援事業所あったか当別管理者の木村晃子さんで、地域に根ざした取り組みを紹介していただきました。

活動予定

このコーナーでは、けあさぽりんくで企画・運営する各種行事の案内をします。参加のご希望やお問い合わせは下記連絡先まで!!

- スーパーバイザー養成講座中級編の開催
2月20日・21日に、市民活動プラザ星園で行います。講師は前回同様、日本ケアマネジメント学会理事の白木裕子さんです。なお、この研修は、初級編の修了者のみが受講できます。

編集後記：寒い日々が続きますが、今年は雪が少なくホッとしています。私が住む手稲区は特に例年より少ないので、「福祉除雪」を担当している身としては大助かりです。このまま春までいってほしいなあと思うこの頃です。（奥）

発行：一般財団法人 北海道ケアマネジメントサポートリンク（けあさぽりんく）

北区北10条西4丁目SCビル2F TEL:(011)594-8608/FAX:(011)594-8358

URL：<http://www.care-support-link.jp> E-mail：info@care-support-link.jp